

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【公開番号】特開2007-89874(P2007-89874A)

【公開日】平成19年4月12日(2007.4.12)

【年通号数】公開・登録公報2007-014

【出願番号】特願2005-284287(P2005-284287)

【国際特許分類】

A 4 7 J 27/00 (2006.01)

H 0 5 B 6/12 (2006.01)

【F I】

A 4 7 J 27/00 1 0 9 Q

H 0 5 B 6/12 3 1 4

H 0 5 B 6/12 3 3 5

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

調理容器を加熱する加熱手段と、

該加熱手段の加熱出力を制御する加熱制御手段と、

調理容器の温度を検出する温度検出手段と、

該温度検出手段の検出温度から温度上昇度を算出する温度上昇度算出手段とを備え、

前記加熱制御手段は、

前記温度上昇度算出手段により算出された温度上昇度の増加が加熱開始から所定時間経過後に停止し、その後、温度上昇度が減少に転じたときに調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする加熱調理器。

【請求項 2】

前記加熱制御手段は、

前記温度上昇度算出手段により算出された温度上昇度の増加が加熱開始から所定時間経過前に停止すると、温度上昇度が予め設定された基準上昇度より低いかどうかを判定し、温度上昇度が基準上昇度より低いとき調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする請求項 1 記載の加熱調理器。

【請求項 3】

前記加熱制御手段は、

前記温度上昇度算出手段により算出された温度上昇度の増加が加熱開始から所定時間経過前に停止すると、前記温度検出手段の検出温度が予め設定された基準温度を超えたかどうかを判定し、検出温度が基準温度を超えたとき調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする請求項 1 記載の加熱調理器。

【請求項 4】

前記加熱制御手段は、

前記温度上昇度算出手段により算出された温度上昇度の増加が加熱開始から所定時間経過前に停止すると、前記温度検出手段の検出温度が予め設定された基準温度を超えたかどうか、温度上昇度が予め設定された基準上昇度より低いかどうかをそれぞれ判定し、検出

温度が基準温度を超え、かつ、温度上昇度が基準上昇度より低いとき調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする請求項１記載の加熱調理器。

【請求項５】

前記加熱制御手段は、

前記温度上昇度算出手段により算出された温度上昇度の増加が加熱開始から所定時間経過前に停止すると、温度上昇度が予め設定された基準上昇度より低いかどうかを判定し、温度上昇度が基準上昇度より低いとき調理容器内が沸騰していると判断し、また、前記温度検出手段の検出温度が予め設定された基準温度を超えたかどうかを判定し、検出温度が基準温度を超えたとき調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする請求項１記載の加熱調理器。

【請求項６】

調理容器を加熱する加熱手段と、

該加熱手段の加熱出力を制御する加熱制御手段と、

調理容器の温度を検出する温度検出手段と、

該温度検出手段の検出温度から温度上昇度を算出する温度上昇度算出手段とを備え、

前記加熱制御手段は、

前記温度上昇度算出手段により算出された温度上昇度の増加が加熱開始から所定時間経過後に停止すると、温度上昇度の増加中にカウントした値が所定時間を超えたかどうかを判定し、そのカウント値が所定時間を超えたとき調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする加熱調理器。

【請求項７】

前記加熱制御手段は、

前記温度検出手段の検出温度が予め設定された基準温度を超えると調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする請求項６記載の加熱調理器。

【請求項８】

前記加熱制御手段は、

前記温度検出手段の検出温度が予め設定された基準温度を超えると調理容器内が沸騰していると判断し、また、前記カウント値が所定時間を超えていなかった場合には、温度上昇度が予め設定された基準上昇度より低いときも調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする請求項６記載の加熱調理器。

【請求項９】

前記加熱制御手段は、

前記カウント値が所定時間を超えていなかったとき、あるいは前記温度上昇度算出手段により算出された温度上昇度の増加が予め設定された基準上昇度を超えた場合に、その後、温度上昇度が基準上昇度より低くなると調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする請求項６記載の加熱調理器。

【請求項１０】

前記加熱制御手段は、

前記温度検出手段の検出温度が予め設定された基準温度を超え、かつ、温度上昇度が基準上昇度より低いとき調理容器内が沸騰していると判断することを特徴とする請求項６記載の加熱調理器。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００５】

本発明に係る加熱調理器は、調理容器を加熱する加熱手段と、加熱手段の加熱出力を制御する加熱制御手段と、調理容器の温度を検出する温度検出手段と、温度検出手段の検出温度から温度上昇度を算出する温度上昇度算出手段とを備え、加熱制御手段は、温度上昇

度算出手段により算出された温度上昇度の増加が加熱開始から所定時間経過後に停止し、その後、温度上昇度が減少に転じたときに調理容器内が沸騰していると判断する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明においては、温度上昇度算出手段により算出された温度上昇度の増加が加熱開始から所定時間経過後に停止し、その後、温度上昇度が減少に転じたときに調理容器内が沸騰していると判断するようにしたので、底に反りの入っている調理容器を使用しても大きな誤差もなく沸騰を検知することができる。